# この本を読むみなさんへ

関根健一

新聞を読んだり、テレビを見たりしていて、おや、なぜこう表すのだろう。あれ、なにを指して言っているのだろう――と不思議に思ったことはありませんか。そんな日本語の「なぜ？」「なに？」を解き明かす旅へご招待します。

右のページは、小学校四年生以上の漢字には読み仮名を付け、難しい用語は使わず、易しく書きました。どこから読んでも、順番を飛ばしてもかまいません。左のページ（もっとくわしく）も、「二十歳未満はお断り」なんてことはありません。どうぞご遠慮なく。

右のページは小学校の教科書で用いられている字の形で印刷しています。手書きの字に近い形です。筆写のときの参考にしてください。新聞やふつうの書籍では左のページの字の形が多く用いられています。大事な言葉は太くしています。この三種類の字は、それぞれデザインが違うのです。例えば「人」「近」「心」「令」は、左のページではどんな形になっているでしょう。確かめてみたくなったあなたは、もう日本語のふしぎの国へ足を踏み入れています。ほら、かわいいイラストが手招きしていますよ。さあ、出発！



## もっとくわしく

この本は、読売新聞教育面に二〇一〇年四月から連載中の「なぜなに日本語」を右ページに、連載に連動して読売プレミアムなどウェブ上で配信した記事を左ページにまとめたものです。加筆修正し、書き下ろしを加えました。

新聞連載は主に小中学生が、ウェブの方は主に大人の読者が対象です。右ページでおおまかな知識を確認してから、詳細な説明や関連する事柄について述べた左ページに進むと、より理解が深まるでしょう。また、親と子、先生と生徒とで分担して読み、分かったことを教え合うなど、さまざまな読み方を試していただければと思います。

右ページと左ページとで印刷の書体を変えました。右ページは楷書に近い教科書体を、左ページは一般に広く使われている明朝体を用いました。筆写体と明朝体は形（字形）が異なります。「人」「近」「心」「令」などは特にその差が目立つ漢字です。

役所や銀行の窓口で署名を求められたり、書き取り試験を受けたりする際、これらをどう書けばいいか戸惑うことがあります。明朝体は印刷物で読みやすいよう工夫された書体なので、教科書体を手本にした方が書きやすいはずです。もちろん、いずれの形も、同じ字を表しています。印刷文字としての示し方の違いにも目を留めてみてください。

キーワードは**ゴシック体**にしました。強調したいときに用いる書体です。別の項目でも取り上げている語については、『』を付け、参照できるようにしました。

日本語の「なぜなに」を「なるほど」に変えるお手伝いができれば幸いです。

なぜなに日本語

# 目次


この本を読むみなさんへ ―― 2

## 第1章 語彙（ごい） 10

1 ゴ○ラと○ジラで、怪獣王誕生 ―― 12
2 将棋は「指す」、囲碁は「打つ」 ―― 14
3 何でも「やばい」は、やばい？ ―― 16
4 「滑る」と言ったら叱られた ―― 18
5 メモらないからミスるんだ ―― 20
6 「ナウい」はもうナウくない ―― 22
7 「押すな」×2＝大混雑 ―― 24
8 楽しい「こ」、かわいい「こ」 ―― 26
9 美しく散らす、汚らしく散らかす ―― 28
10 「ぶる」より「らしく」 ―― 30
11 「くせに」と言わないで ―― 32
12 思わず「あわや」と声に出た ―― 34
13 自信があるから「必ずや」 ―― 36
14 「あさって」の翌日、何て呼ぶ？ ―― 38
15 うらめしや〜と現れたのは ―― 40
16 難しくてもステキな校歌 ―― 42
17 「より」は「から」より古めかしい ―― 44
18 二年ぶりなら三年目 ―― 46
19 「なおざり」より「おざなり」がまし ―― 48
20 「きれい」じゃなくても「美しい」 ―― 50
21 ぜいたくをしない生活は？ ―― 52
22 「さびしい」の？「さみしい」の？ ―― 54
23 遠い未来、近い将来、そして今後 ―― 56
24 「順延」だったら必ずあした ―― 58
25 黒と白とで、くっきりはっきり ―― 60
26 「女王の労苦」と「王女の苦労」 ―― 62
27 ふつうは「洋風」、「和風」は特別 ―― 64
28 「不」の使い方　不ぞろい、不統一 ―― 66
29 非加入ですか？　未加入ですか？ ―― 68
30 「ん」を使うのはどんなとき？ ―― 70

## 第2章 漢字（かんじ） 72

1 「日年大人国」って何？ ―― 74
2 漢和辞典で「聞」を探す ―― 76
3 「ページ」と呼ばないで ―― 78
4 美しい「月」、なまぐさい「月」 ―― 80
5 点で違う!?「専」と「博」 ―― 82
6 十才、いずれは十四歳 ―― 84
7 同じ形を三つ重ねて表すのは ―― 86
8 似ているけれど、本物じゃない ―― 88
9 「米」の字が意味するものは？ ―― 90
10 「農作物」も「作物」だけど ―― 92
11 ひっくり返って「乗車」する？ ―― 94
12 「朝刊」と「夕刊」の違いは？ ―― 96
13 「特徴」よりも「特長」をPR ―― 98
14 対象と対称の使い道、対照的 ―― 100
15 日影をさえぎってできる日陰 ―― 102
16 「技」「業」わざわざ使い分け ―― 104
17 範囲を示す「代」と「台」 ―― 106
18 「根」が付いた「羽」は胸に ―― 108
19 柄のない「かさ」もある ―― 110
20 漂ってきたのは、匂い？　臭い？ ―― 112
21 「暑い」は夏専用の言葉 ―― 114
22 「以上」よりも「超える」数 ―― 116
23 取ったり、捕ったり、採ったり ―― 118
24 混雑しているから「混む」？ ―― 120
25 「競」と「比」くらべたら ―― 122
26 うれしい気持ちを書きたいときに ―― 124
27 海海海海海――何と読む？ ―― 126
28 年の順を表す伯・仲・叔・季 ―― 128
29 河と川、水の流れは変わらず ―― 130
30 寄せる思い　あふれる「春」 ―― 132

## 第3章 意味（いみ） 134

1 なぞなぞの作り方、教えましょう ―― 136
2 赤とんぼに追っかけられて？ ―― 138
3 明けたのは去年？　今年？ ―― 140
4 「甘い」の反対、「辛い」じゃない ―― 142
5 「ない」×「ない」＝「ある」 ―― 144

6 「お菓子がない」のに「ある」って ―― 146
7 「ちょっと」隅に置けない ―― 148
8 永田町の動きがホワイトハウスに ―― 150
9 「ような」「ように」で伝えるには ―― 152
10 春見る花は何の花？ ―― 154
11 財布にひもは付いている？ ―― 156
12 タコ焼きとタイ焼きの違いは？ ―― 158
13 三センチ先も見えない!? ―― 160
14 二倍、三倍でも「人一倍」 ―― 162
15 「四六時中」、昔は「二六時中」 ―― 164
16 計算合わない七転び八起き ―― 166
17 指折り数えて待つ二十歳 ―― 168
18 「千六本」に切れますか？ ―― 170
19 抜くに抜けないコンセント ―― 172
20 エアコン、パソコン、コン違い ―― 174
21 フリーマーケットはフリーな市場？ ―― 176
22 「メタボ」ヰ「太っている」 ―― 178
23 ショックがショッキングなわけ ―― 180
24 毛むくじゃらの「カメ」がいた ―― 182
25 「一所懸命」から「一生懸命」に ―― 184
26 「ひもじい」を知っていますか？ ―― 186
27 お菓子屋さんにない「水菓子」 ―― 188
28 パソコン入力でも「筆が立つ」 ―― 190
29 「結果を出す」のは、よい結果？ ―― 192
30 「青信号」なぜ緑色？ ―― 194

## 第4章 文法 ぶんぽう 196

1 「違くない」はちょっと違う ―― 198
2 「食べられますか」と聞かれたら ―― 200
3 「知れる」の用法、知れたこと ―― 202
4 足りないの？ 足らないの？ ―― 204
5 友達を「信じる」？「信ずる」？ ―― 206
6 「せわしい」のに「せわしない」？ ―― 208
7 取ってはいけない「ない」がある ―― 210
8 「仕方がない」と受け入れる ―― 212
9 「長っ」何か忘れてませんか？ ―― 214
10 みんなすごく使う「すごい」 ―― 216
11 「困った」のはいつのこと？ ―― 218
12 心に深く感じ「たっけ」 ―― 220
13 いろいろあるんだ「そうだ」 ―― 222
14 「なので」が好きなので… ―― 224
15 「べき」止め、やめるべし!? ―― 226
16 「ちっとも」と切り出されたら ―― 228
17 遠く「へ」行きたい、南の島「に」 ―― 230
18 しなさい「よ」、分かった「よ」 ―― 232
19 「いつしか」「ただし」の「し」 ―― 234
20 真ん中、真ん真ん中、ど真ん中 ―― 236
21 勢い余って「すっ」飛んだ ―― 238
22 「明るみ」「高みの」「み」 ―― 240
23 気配、感じを表す「げ」 ―― 242
24 「濃いすぎる」は一字多すぎる ―― 244
25 「〜っぽい」は幼稚っぽい？ ―― 246
26 「〜通し」と「〜っぱなし」は同じ？ ―― 248
27 「ら」「など」がなかったら ―― 250
28 細長い「本」、平たい「枚」 ―― 252
29 新聞の数え方、三通り ―― 254
30 「この空」ってどこにある？ ―― 256

## 第5章 表記 ひょうき 258

1 「カ」と読む「ケ」は「ケ」ではない ―― 260
2 「々」を何と呼ぶ？ ―― 262
3 つながり決める大事な点 ―― 264
4 「疑問符」いつ使う？ ―― 266
5 0、〇、零 書き方三通り ―― 268
6 お寺の額はみんな縦書き ―― 270
7 読み間違い防ぐ役目の送り仮名 ―― 272
8 「受け付け」か「受付」か ―― 274
9 「は」と書いてあるのに「わ」 ―― 276
10 「王子」と「大きい」、オー違い ―― 278
11 「鼻血」は「はなじ」？「はなぢ」？ ―― 280
12 仮名で書く方が難しい!? ―― 282
13 どうして生まれたの仮名？ ―― 284
14 カタカナ表記のメッセージ ―― 286
15 「フランドルの犬」って？ ―― 288
16 スマートフォンを略したら ―― 290
17 「三五月」に「十六」が出た？ ―― 292
18 「1休み」は「2度としない」 ―― 294

19 気ままに一人、寂しく独り ―― 296
20 産んだ卵を玉子焼きに調理 ―― 298
21 「探検」「探険」、どっちが危険？ ―― 300
22 だって「T」の形だから ―― 302
23 どこもかしこも「激」ばかり ―― 304
24 ショウガないは、しょうがない!? ―― 306
25 「見る」わけじゃない「みる」 ―― 308

第6章 発音 はつおん 310

1 「日本」の読み方　二本立て ―― 312
2 小さくっても大きな役目 ―― 314
3 楽をして「すいません」 ―― 316
4 「にしきおり」が「にしこり」に ―― 318
5 ナマヤラワ行は濁れない ―― 320
6 「ごろ」が「ころ」になるとき ―― 322
7 キツネザルはなぜ「ザ」と濁る？ ―― 324
8 イチ、ニ？　ひと、ふた？ ―― 326
9 「一日」を「ついたち」と読むわけ ―― 328
10 人気なく、ひっそり？　がっかり？ ―― 330
11 何かと違う「なん」と「なに」 ―― 332
12 「私」の読み　使い分ければ大人 ―― 334
13 読み方で変わる「明日」の印象 ―― 336
14 「行く」は「ゆく」？「いく」？ ―― 338
15 生かした料理「活作り」 ―― 340
16 なぞかけの極意!? ―― 342
17 「さかさ」だって同じ ―― 344
18 しりとり必勝法!? ―― 346
19 いいかげんは、よい加減 ―― 348
20 外来語の発音　平らに ―― 350

第7章 敬語 けいご 352

1 もしも敬語がなかったら ―― 354
2 子どもっぽいが、付けていいデス ―― 356
3 「とんでもない」を丁寧に言うと ―― 358
4 様にならない？「～殿」 ―― 360
5 「お」を付けたら上品に？ ―― 362
6 「いらっしゃる」は働き者 ―― 364
7 「なさい」と叱られたり謝ったり ―― 366
8 「もしもし」の始まり ―― 368
9 その人は高める？　低める？ ―― 370
10 「お～する」と「お～になる」 ―― 372
11 「参上」　偉そうに言わないで ―― 374
12 値打ち下がった「あげる」 ―― 376
13 いただけない言い回し ―― 378
14 どう言ってもしっくりこない ―― 380
15 「～たいですか」と聞かれても ―― 382

第8章 語源 ごげん 384

1 「師走」に師は走らなかった!? ―― 386
2 「粉」も「蚕」も昔は「こ」 ―― 388
3 「木の実」の読み方は？ ―― 390
4 みなと、まなこ、「な」の秘密 ―― 392
5 たそがれに呼びかけて ―― 394
6 「とうの昔」の「とう」とは？ ―― 396
7 「道なり」「鈴なり」　なり違い？ ―― 398
8 「いやが上」の「いや」は？ ―― 400
9 はかってくれた背のたけ ―― 402
10 「五月晴れ」は五月じゃない？ ―― 404
11 使い方、ぜいたく「三昧」 ―― 406
12 「五里霧中」の切れ目はどこに？ ―― 408
13 「きら星」ってどんな星？ ―― 410
14 「午」は南、お昼の十二時 ―― 412
15 カルタとカードの関係は？ ―― 414
16 ピンクのワイシャツなんて!? ―― 416
17 そのイクラは幾ら？ ―― 418
18 星を統べる「スバル」 ―― 420
19 ノーサイドは政治用語？ ―― 422
20 「かきいれ時」――漢字で書けば？ ―― 424

索引 ―― ii（巻末）

## ごい 19 「なおざり」より「おざなり」がまし

ちょっと遊びすぎたせいか成績が急に下がってしまい、「ちゃんと勉強してる？　**なおざり**にしてるんじゃないの」と叱られたことはありませんか。えっ、「なおざり」じゃなくて、「**おざなり**」って言われた?!

すべきことをせず、ほったらかしにするのが「なおざり」です。それに対して、あまりまじめにはしないけれど、一応は何かをするのが「おざなり」です。

教科書も開かないで、ゲームをやったり、テレビを見たりしているのは、「勉強をなおざりにしている」と言えるでしょう。「おざなりに勉強をする」は、教科書は開くものの、あくびをこらえながら、適当に斜め読みするだけといった態度です。

「なおざり」はそもそも何もしないのですから、「なおざりな勉強」というのは日本語の言い方としてあり得ません。真剣味のない様子は「おざなりな勉強」と言います。

どちらにせよ、ほめられたことではありません。「なおざり」になんかしてないよ、ちょっと「おざなり」だっただけさ、なんておざなりな言い訳はしないようにね。

もっとくわしく

### ほうっておくか、適当にやるか

「なおざり」は**等閑**という漢字が当てられます。閑に等しい、つまり、何もやらないのと同じなのです。語源としては「猶在り」だとする説があります。何も手をつけず、ほったらかしにした結果、「なお（元の通り変わらず）存在する」、つまり、事態が変化しない状態を表すというわけです。

「おざなり」は漢字で書けば**御座形**です。「お座敷形」という言葉から来ています。呼ばれた座敷（宴席）のお客に合わせて、その場しのぎに適当にとりつくろっている様子を連想してしまいます。誠意はない、やる気もない。ただし、「なおざり」と違って何もやらないわけじゃない、やってはいるのです。

なにか重大なミスが起きたとき、その原因が、必要な確認作業をしなかったことによるなら、「仕事をなおざりにした」、同僚とおしゃべりしながら確認作業をしたため見落としたというなら「おざなりな仕事だった」となるでしょうか。

結果的にはミスしたことに変わりはありませんが、部下の仕事を監督する管理職であれば、ミスの原因が「なおざり」と「おざなり」、どちらなのか、きちんと把握しておく必要があるかもしれません。

かんじ 1

# 「日年大人国」って何？

「日年大人国」――これは読売新聞に出てくる漢字の数を調べ、登場回数が多い順番に並べたものです。どれも音読み、訓読みの両方で用いられます。それだけ使い道がたくさんあるわけです。

毎**日**、近**日**、曜**日**、少**年**、**年**上、**大**きい、**大**学、**大**半、**人**間、**人**員、**人**々、**国**会、島**国**…これらの漢字を用いた言葉は紙面から簡単に見つかります。また、ニュース記事では事件や事故が起きた日にちが必ず入ります。「日」が一位になったのは当然でしょう。

雑誌や教科書を対象にした調査では、「人一日大年」の順番でした。「一」は、日付、時刻、人数、金額などでよく使われる漢字です。ただ、新聞は日時などに算用数字の1を使用するため、トップ5から外れたようです。代わりに「国」が入っているのは、外国との付き合い方や国際化の進展が、大きな問題として報道されているからでしょう。

ところで、朝日新聞でも同じ調査をしているのですが、この順番は読売新聞と変わりませんでした。「日年大人国」は今の新聞の言葉の特徴をよく表している漢字なのです。

もっとくわしく

## 新聞で多く使われる漢字は？

右ページで紹介した新聞の漢字調査は、二〇〇六年十月一日から十一月三十日までの東京本社発行最終版朝刊、夕刊を対象に行いました。広告やテレビの番組表などは除いてあります。延べ三四二万八八二九字、三七八七種類になります。第一位の「**日**」以下、**年・大・人・国・会・本・中**……と続きます。三七八七種類と聞くと多いように思いますが、第二〇〇〇位の「**釧**」までで九九・六％を占めています。情報を伝えるうえでは、二千字程度でほぼ足りるということになるでしょうか。

この調査は、**常用漢字**改定審議の参考資料として、文化庁から依頼され、作成したものです。そのときの常用漢字にない字で、新聞で多く使われていたトップ5は**藤・岡・韓・阪・奈**でした。この五文字は二〇一〇年、常用漢字に追加されました。

一回しか出てこない字も四二一字あります。たとえば「**矗**」。日本人として初めて南極大陸に上陸した探検家・白瀬矗の名前です。一九五六年十一月に日本初の南極観測船「宗谷」が出航してから五十年になるのにちなみ、南極観測に関する記事が書かれ、その中で出てきたものです。「日年大人国」のように毎日のように使われる漢字もあれば、その年、その日だからこそ登場する漢字もあるというわけです。

## いみ 30

# 「青信号」なぜ緑色？

**青信号**はよく見ると、青でなく、緑色のものが多いようですね。なぜ「緑信号」と言わないのでしょう。

古代の日本語には、色を表す言葉は、**赤・黒・白・青**だけしかありませんでした。この四つはどれも直接「い」を付けて、「赤い・黒い・白い・青い」と言えます。「赤々・黒々・白々・青々」と繰り返す言い方も作れます。緑や黄などは、「緑い」「黄々」とは言えません。そんなところからも、赤・黒・白・青が基本の色の名前だったと分かります。

青はねずみ色や緑色を含む広い範囲の色を指して使われていたのです。「青葉」「青ガエル」「青々と茂る」のように、緑色を青で表す言い方は今も残っています。

緑はもともと、草木の新芽を指す言葉でした。赤ちゃんを**緑児**と言います。これは、新芽のような若々しさをたとえた表現です。つやのある美しい髪を**緑の黒髪**と表すのも、みずみずしい新緑の様子からです。緑と黒に染め分けたわけではありません。

もっとくわしく

## 明暗の違い表した「赤・黒・白・青」

**青物**、**青田**、**青柳**なども、青と言いながら緑色を表している言い方ですね。青と言いながら青でないのは信号機だけではありません。大相撲の土俵の四隅に下がっている色房（四房）は、**青竜**、**朱雀**（鳳凰＝赤）、**白虎**、**玄武**（亀と蛇の合体＝黒）と呼ばれ、それぞれ東北、東南、西南、西北の方位を表していますが、青竜の青房は緑に近い色が使われています。

日本語の色を示す言葉「赤・黒・白・青」はもともとは色彩というより、光の明暗、濃淡を示すものだったとされています。

赤は「明（あか）し」、黒は「暗（くら）し」から来ています。白は「著（しろ）し」で、はっきりしている、青は「淡（あわ）し」で、「ぼんやりとしている」の意です。

最も古くから用いられてきた四色ですが、これが基本色というのは世界共通ではないようです。欧米の言語では、まず白・黒・赤が、続いて、緑・黄が使われ、青はその後に出てきたと言われます。色の名前が生まれた順序が、日本語とは違うのです。欧米で誕生した信号機が、赤・黄・緑の組み合わせになっている理由には、そんな事情も絡んでいるのかもしれません。

ぶんぽう 6

# 「せわしい」のに「せわしない」？

「掃除しなくちゃ、買い物にも行かなくちゃ、ああ、**せわしい**」

「なんだか、**せわしない**ね。落ち着きなよ」

えっ、「せわしい」のに「せわしない」って、どういうこと？

「**ない**」は、「寒い／寒くない」「広い／広くない」のように、上の言葉の意味を**打ち消す**ときに使われます。でも、「せわしない」は「せわしい」を打ち消しているわけではありません。この「ない」は、**意味を強める**働きをしているのです。

「せわしい」は「忙しい」と似ていますが、用事がたくさんあるだけでなく、心にゆとりがないときは、「せわしい」と言った方がぴったりきます。その「せわしい」程度をもっと強調すると「せわしない」となるのでしょう。「せわしい」を打ち消すのなら、「せわしくない」です。

「**いとけない**」（幼い）、「**はしたない**」（行儀が悪くて、見苦しい）などの「ない」も同じ強調の「ない」です。

もっとくわしく

## ないのではない、強調する「ない」

打ち消しの「ない」か強調の「ない」かは、「ない」を「ぬ」に置き換えてみれば分かります。打ち消しの「ない」は、「落ち着かない」→「落ち着かぬ」のように、「ぬ」に置き換えられます。一方、「せわしない」を「せわしぬ」とは言えませんね。

「せわしい」の語源ははっきりしませんが、「狭い」と関係があるという説があります。空間的に窮屈なのが「狭い」、時間的に窮屈なのが「せわしい」というところでしょうか。カレンダーに所狭しとばかりに予定を書き込んだりすると、「せわしさ」が実感されます。「せわしい」に強調の**接尾語**「ない」を付けた「せわしない」。ただ、「せわしい」よりも程度が甚だしいというだけでなく、人から見て、いかにもせわしい感じがする、といったときに、「せわしない」が使われることが多いようです。

「いとけない」の「いとけ」には「幼い」の意味があります。「いとけない」は「幼い」程度を強調した言い方です。「はしたない」の「はした」は「半端（数が足りない）」のことで、もともとは、不足の程度が甚だしいという意味でした。そこから転じて、中途半端で収まりが悪い、身の置き所がなくて恥ずかしい、さらに、行儀が悪くて見苦しい様子を表す現在の使い方になったようです。

ひょうき 2

# 「々」を何と呼ぶ？

「**々**」は、「山々」「弱々しい」など、すぐ前の漢字一字をくり返して書く代わりに用いる符号です。「やまやま」「よわよわ」と、その漢字と同じ読み方をします。「々」そのものには音や訓はありません。**同の字点**などと呼ばれ、**くり返し符号（重ね字、踊り字）**の仲間です。

同じ漢字が続くからといっても、たとえば、「民主」と「主義」といった、別々の言葉が合わさった結果、たまたま同じ漢字が続くときは、「民主々義」とはしないで、「民主主義」と書きます。

平仮名をくり返す場合は「ゝ」、片仮名は「ヽ」を用います。夏目漱石の小説は古い本では『こゝろ』となっています。後ろの仮名が濁るときは、「ゞ」「ヾ」になります。

踊り字は、もともと、手書きするときに、同じ文字を書くわずらわしさを減らし、文書を早く仕上げるための工夫でした。でも、パソコンで打つなら、手間は同じですね。踊り字の効用は少なくなってしまったかもしれません。



もっとくわしく

## 「おのおの」を漢字で書けば

「々」は、その形から**ノマ**と呼ぶ人もいます。ただし、片仮名のノとマを組み合わせたものではありません。「同」の**異体字**（標準とは違う形の字）である「仝」が変化してできたとの説から同の字点の名があります。また、中国でも用いられていた〻（**二の字点**）に由来するともされます。

ほかには、「さら〳〵」「くれ〴〵」のように、仮名を二字分くり返す**くの字点**もありますが、『国語の書き表わし方』（文部省編　一九五〇年十二月）で、『々』以外は、できるだけ使わないようにするのが望ましい」とされ、次第に使われなくなりました。

ところで、「各」はこれ一文字で「**おのおの**」と読みます。ただ、読みにくいので、常用漢字表の備考欄では「各々」とも書くと注記しています。日本国憲法の原文には「両議院は、各〻」という言い方が六回出てきます。この符号は訓のくり返しを表す二の字点を小さくして右に寄せた形です。二の字点は現代表記にはなじまないので、条文を引用する場合も「各々」などと表記して差し支えないでしょう。

図表や簿記などで使う〃（**ノノ点**）は、今も使われています。欧文で使われていたのを取り入れたもので、もともとは横書き用の符号です。

はつおん 18

# しりとり必勝法!?

**しりとり**は、相手が言った言葉のおしまいの音を取ってきて、それが最初に付く言葉を続けます。どの音で始まる言葉が少ないかを知っておくと、ぐんと有利になりますね。

国語辞典の真ん中あたりを開いてみてください。サ行の後半ぐらいになるでしょう。日本語の言葉の半分はア行、カ行、サ行で始まっているのです。少ないのはラ行です。

ラ行には、「ランチ」「リズム」「レジャー」といった外国から来た言葉が多いことに気づきます。奈良時代より前、日本語には最初がラ行の言葉はありませんでした。「落第」「理解」「礼儀」はラ行で始まっていますが、これら漢字を音読みで読む熟語は、もとをたどれば、中国から入ってきた**外来語**です。

今も外来語は増え続けています。ラ行で始まる言葉も多くなっているでしょう。でも、もともとの日本語になかったので、ほかと比べれば少ないはず。「まくら」「ユリ」「ウクレレ」など、ラ行で終わる言葉を言えば、相手を困らせることができますよ。

もっとくわしく

## 何で始まる言葉がいちばん多いか

本文約千八百ページの国語辞典の行ごとのページ数から、それぞれの行の音で始まる言葉のおおよその割合を出してみました。多い項目がカ行の二〇％、サ行一九％、ア行一四％。少ない方では、マ行が六％、ナ行が五％、ラ行、ヤ行は三％でした。ヤ行はヤユヨだけですから、ラリルレロで三％のラ行の少なさは際だっています。

ア段からオ段までの段（**母音**）別では、最も少ないのはエ段です。日本語の母音は古くはアイウオの四つだったとされています。エは、アイやイアという母音がつながって生まれたとされます。そこで、エ段の音（エケセテネヘメ）の和語は全体的に少なく、言葉の最初にも来にくいようです。

また、**濁音**で始まる言葉はやはり、欧米から来た外来語や、中国語に由来する漢語に多く、全体として数は多くありません。「抱く」「ばら（薔薇）」など、現代語では濁音で始まりますが、もともとは、「いだく」「うばら」と言いました。最初の音が落ちて、濁音が前に出たために生まれた言葉です。

ラ行に加えて、エ段または濁音で終わる言葉をたくさん考えておけば、しりとりチャンピオンにきっとなれるはずです。

けいご 3

# 「とんでもない」を丁寧に言うと

「ない」を丁寧にすると「ございません」（「ありません」）、「時間がない」は「時間がございません」（「ありません」）となります。

ほめられたり、感謝されたりしたときに、それを打ち消すように言うのが「**とんでもない**」です。ところが、謙遜する気持ちが含まれているのに、敬語の表現にはなっていません。丁寧さを補う気持ちから、「**とんでもございません**」（「とんでもありません」）の言い方ができたのでしょう。

しかし、「とんでもない」は「とんで（も）」というものが「ない」のではありません。「とんでもない」は一つのまとまった言葉で、「ない」だけ切り離し、「ございません」に変えることはできないはず。そこで、「とんでもない」をそのまま残し、「**とんでもないことでございます**」と続けるのが正しいとされてきました。

ただ、今は「とんでもございません」がおかしいと感じる人は少なくなっています。伝統的な文法からは外れていても、便利に使われているあいさつ表現の一つです。

もっとくわしく

## 正しく言ったら誤解された？

二〇〇三年度「国語に関する世論調査」では、「とんでもございません」という**丁寧語**を使った言い方が「気になる」は一七・八％、「気にならない」が六八・三％で、かなり広く受け入れられているという結果が出ています。「敬語の指針」（二〇〇七年二月文化審議会答申）も、「相手からの褒めや賞賛などを軽く打ち消すときの表現」として使うのに「問題ないと考えられる」と述べています。

ところで、「とんでもない」には、「鼻から牛乳を飲むなんてとんでもない」のように、常識外れのひどい様子を表す使い方もあります。もしこれを敬語で言うなら、「鼻から牛乳を召し上がるなんてとんでもございません」ではなく、「鼻から牛乳を召し上がるなんてとんでもないことでございます」となるはずです。このような使い方があるので、褒められたのに対し、謙遜して否定するとき、「とんでもないことでございます」と応じると、「褒めたこと」＝「とんでもないこと」と受け取られるおそれもありそうです。とすれば、意味によって、「とんでもないことでございます」と「とんでもございません」の二種類の敬語表現を使い分ける方が合理的だということになるでしょう。

ごげん 1

# 「師走」に師は走らなかった!?

昔の暦で十二月を**師走**と言います。師はお坊さんのことで、お経を上げるのに西へ東へはせる（速く走る）月なので「しはせ」と言ったのに由来するとされます。慌ただしい年末の雰囲気が目に浮かぶようですね。でも、この由来が本当かどうかは分かりません。

シワス（シハス）という言葉を説明するために、後から作られた説らしいのです。確かな根拠にもとづいて突き止めたのではなく、音の連想からこじつけられたのでしょう。よく寝るからネコ、足をずぼっと入れるからズボンなどというのと似た発想です。

言葉の起こり（語源）については分からないものも多く、なかなか納得の行く証拠にはたどり着けません。けれど、日頃使っている言葉が、なぜ生まれたのか知りたいという人々の思いは、さまざまな説を生み出してきました。

**睦月**（一月）は、正月はみんなで睦まじく（仲良く）するからとも言います。正しいかどうかは別として、昔の人がその言葉に寄せた思いが伝わってくるようです。

もっとくわしく

## 理屈を付けたり、こじつけたり

「師走」の語源が、僧侶がお経をあげるため、「馳せる」（駆ける）月であるという解釈は、平安時代にはすでに知られていました。旧暦十二月には、いろいろな仏の名前を唱えて、その年にした悪い行いを悔い改める仏名会という行事がありました。僧侶が忙しいのはそのためだという理屈を付けたようです。

「師走」には、ほかにも「年果つ」「為果つ」など、「果てる」（終わる）と関連づけた語源説もあり、どれが正しいかは分かりません。いずれも、確かな証拠があるわけではなく、主に音の連想からこじつけられた解釈です。このような解釈を、**語源俗解**、**民間語源**、**通俗語源**などと言います。「くだる」の例（211ページ）もそうです。

鍋物などに欠かせないのが**ポン酢**は、もともとオランダ語のpons（ポンス＝ダイダイなどかんきつ類の搾り汁）がなまったものです。酸っぱいから酢だ、という語源俗解から、ポン酢と書かれるようになったものです。

明治時代、初めて鉄道が敷かれたころ、一緒にステーションという外来語も入って来ました。これを**ステンショ**と発音し、汽車がとまる所だから「ステン所」と解釈して、そう書いた人もいたそうです。これも語源俗解の一種でしょう。

# 索引（さくいん）

本書の主なキーワードが引けます

## あ〜お


**足**(あ) …… 389
アイスクリン …… 279
青 …… 194
青信号 …… 194
赤 …… 194
赤い羽根 …… 108
赤み …… 241
明るみに出る …… 240
亜寒帯 …… 88
秋 …… 132
飽きる・飽く …… 204
悪事千里を行く …… 171
アクセント …… 348, 351
明け六つ …… 164
上げる・あげる 309, 376
あさって …… 38
亜細亜 …… 88
明日(あす・あした) 336
頭高型 …… 351
アタリメ …… 18
暑い・熱い・厚い …… 114
篤い …… 115
あつし(篤・淳・敦) 115
あながち …… 37
亜熱帯 …… 88
甘い …… 142
天つ風 …… 392
甘み・甘味 …… 241
亜米利加 …… 90
荒々しい …… 25
アラカルト …… 414
アラビア数字 …… 294
荒技・荒業 …… 105
ありがたみ …… 241
荒磯 …… 319
ありの実 …… 19
亜流 …… 88
ある …… 146
アルジェリア …… 411
アルヘンティナ …… 289
あわや …… 34
あわよくば …… 35
あんパン …… 123
暗喩 …… 151
**い**いかげん …… 348
イエローカード …… 422
イ音便 …… 329
以下 …… 116
イカ焼き …… 159
いきづくり(活作り) 340
生きとし生けるもの 234
行く・いく …… 309, 338
イクラ …… 418
いけづくり(活作り) 340
生ける・活ける …… 340
いさ …… 229
いざ知らず …… 229
異字同訓 …… 343
「異字同訓」の漢字の使い分け例 …… 117, 341
「異字同訓」の漢字の用法 …… 117, 341
以上 …… 116
已然形 …… 213, 397
五十六(いそろく) 327
異体字 …… 263
いたす …… 373, 375
いただく …… 378
いたちごっこ …… 27
一衣帯水 …… 409
いちじく …… 281
いちじるしい …… 281
イチ・ニ・サン …… 326
一日千秋 …… 132
一倍 …… 162
一攫千金 …… 171
一騎当千 …… 170
一生 …… 184
一生懸命 …… 184
一所懸命 …… 184
一寸先は闇 …… 160
一寸の虫にも五分の魂 160
一朝一夕 …… 96
いっぱいいっぱい …… 24
一筆啓上 …… 374
逸物 …… 93
いとこ(従兄・従弟・従姉・従妹) …… 129
いとど …… 43
いなずま(稲妻) …… 280
いななく …… 14
稲村ガ崎・稲村ヶ崎 261
いにしえ …… 43
異表記 …… 301
息吹 …… 43
イマい …… 23
忌み言葉 …… 18
いや応なしに …… 400
いやが上にも …… 400
いやが応でも …… 400
弥栄(いやさか) …… 401
いよよ …… 43
いらっしゃる …… 364
インキ・インク …… 415
隠語 …… 17, 43, 187
イントネーション 233
隠喩 …… 151
陰暦 …… 329
**魚**心あれば水心 …… 410
ウオツカ …… 315
伺う …… 370, 374
受け付け・受付 …… 274
受け身 …… 201
うざい …… 22
薄口 …… 244
薄め …… 244
打ち消しの助動詞 211
打つ …… 14
美しい …… 50
うなずく …… 281
ウラジオストク …… 411
うららか …… 405
ウルトラC …… 423
うわさをすれば影 102
**エ**アコン …… 174
栄養・営養 …… 305
エスパニャ …… 289
襟を正す …… 157
エルサルバドル …… 411
延期 …… 58
婉曲表現 …… 57
遠称 …… 257
演じる・演ずる …… 206
延長 …… 58
**お**(敬語) …… 362
追いし …… 138
おいしゅうございます 356
お忙しいところ恐縮ですが …… 383
おいで …… 364
王国 …… 62
王女 …… 62
おおがい(頁) …… 78
大台に乗る …… 106
おおまがとき …… 395
大技 …… 104
お帰りなさい …… 367
置きっぱ …… 249
オクラ …… 419
送り仮名 …… 272
送りがなのつけ方 273
送り仮名の付け方 …… 273, 275, 299
行う・行なう …… 273
おざなり …… 48
伯父・叔父 …… 128
おしくらまんじゅう 122
小父さん …… 128
押すな押すな …… 24
落ちる …… 19
大人 …… 127
大人びる …… 30
大人ぶる …… 30
踊り字 …… 262
おのおの(各・各々・各 と) …… 25, 263
己(おのれ) …… 213
お化け …… 40
小母さん …… 128
尾羽(おばね) …… 108
お開きにする …… 18
お待ちしています 372
お待ちになっています 372
おむつ …… 362
お召し上がりになる 379
おめでた …… 155
お目もじ …… 187
面影 …… 102
おもちゃ …… 362
おやすみなさい …… 367
お八つ …… 164
お湯が沸く …… 140
おる …… 375
オ列長音 …… 279
負われて …… 138
音節 …… 345
音素 …… 345
御中 …… 361
音読み …… 96


## か〜こ


**か**・ケ・ヶ・箇 …… 260
カード …… 414
外車 …… 94
回文 …… 345
外来語 …… 89, 174, 176, 285, 287, 325, 346, 350, 415, 418
外来語の表記 …… 291
各務原・各務ヶ原 261
係り助詞 …… 397
係り結び …… 397
夏季 …… 133
鍵 …… 172
書き入れ時 …… 424
核の傘 …… 110
陰・影 …… 102
陰口 …… 102
かけくらべ …… 122
影法師 …… 102
雅言 …… 43
過去 …… 218, 221
歌語 …… 43
雅語 …… 43
傘・笠・暈・嵩 …… 110
風切り羽 …… 108
嵩(かさ)にかかる 110
笠(かさ)に着る …… 110
重ね字 …… 262
重ねる …… 19
暈(かさ)をかぶる 110
河岸(かし) …… 131
菓子 …… 188
霞が関・霞ヶ関 …… 261
片仮名 …… 284
カタカナ書き …… 287
カタカナ語 …… 285
肩すかし …… 423
かたみに …… 43
ガタロウ …… 129
勝ちみ …… 241
合衆国 …… 91
カッターシャツ …… 417
ガッツポーズ …… 423
かつて …… 315
カップ …… 415
活用 …… 199
活用語尾 …… 273, 329
必ず …… 36
必ずしも …… 36
必ずや …… 36
カネ …… 286
可能 …… 201, 203, 227
可能動詞 …… 201, 203
河伯 …… 129
上一段活用 …… 207
神業 …… 104
カムチャツカ …… 315
かむなび …… 391
カメ …… 182
かも …… 221
から …… 44
空揚げ・唐揚げ …… 298
辛い …… 142
ガラス …… 415
空振り …… 422
借りる・借る …… 204
カルタ …… 325, 414
カルテ …… 414
夏炉冬扇 …… 132
河・川 …… 130
かわず …… 43
かわたれ(時) …… 394
河内(かわち) …… 318
河原・川原 …… 131
貫 …… 161
ガン …… 289
簡易字体 …… 85
漢音 …… 61, 93
カンガルー …… 183
漢語 …… 60, 95, 167, 373, 418
慣習 …… 63
間食 …… 62
漢数字 …… 294
感嘆符 …… 267
感動詞 …… 35
神無月 …… 393
間髪を入れず …… 410
漢文 …… 95
甘味(かんみ) …… 241
換喩 …… 151
慣用句 …… 137
漢和辞典 76, 78, 81, 92
**戯**訓 …… 293
起源・起原 …… 305
擬声語 …… 25
擬態語 …… 25, 419
気づきの助動詞 …… 221
義務(べし) …… 227
きめこまか・きめこまやか …… 53
きもい …… 22
疑問符 …… 266
脚(きゃく) …… 255
旧仮名遣い ⇨ 歴史的仮名遣い
牛耕式 …… 271
旧字体 …… 83, 85, 106
旧暦 …… 329
来(き)よう …… 307
きら星のごとく …… 410
切る …… 19
切れ …… 255
きれい …… 50
近称 …… 257
**食**う …… 376
クエスチョンマーク 266
九九 …… 292
くさかんむり …… 76
くさぐさ …… 43
くせに …… 32
果物 …… 188, 390
くだらない …… 210
くちへん …… 76
愚痴る …… 21
句点 …… 265
くの字点 …… 263
首っ丈 …… 402
くぼみ …… 240
苦味(くみ) …… 241
組 …… 252
グラス …… 415
比べ・競べ …… 122
くり返し符号 …… 262
来る・くる …… 308
紅 …… 319
暮れなずむ …… 395
暮れ六つ …… 164
黒 …… 194
クロスワードパズル 176
黒っぽい …… 246
軍配 …… 422
訓読み …… 96, 272
**蛍**光灯 …… 153
敬語の働き …… 354
敬称 …… 360, 371
形容詞 …… 199
形容詞＋です …… 357
形容動詞 …… 67, 199
ゲーム …… 350
激・劇 …… 304
げた箱 …… 191
けだもの …… 390
げたを預ける …… 191
けちる …… 20
結果を出す …… 192
結構 …… 349
欠食 …… 186
けぶり・けむり …… 54
けり …… 220
顕(けん) …… 79
現在 …… 218
献上 …… 374
謙譲語Ⅰ 363, 369, 373, 377
謙譲語Ⅱ(丁重語) …… 369, 371, 373, 375
源泉・原泉 …… 305
現代仮名遣い(新仮名遣い) 277, 279, 281, 282, 315
ゲント …… 289
玄武 …… 195
**こ**(粉・子・蚕・籠) 388
個 …… 252
濃い口 …… 244
濃いめ …… 244
轟音 …… 86
康熙字典 …… 76
康熙字典体 …… 106
合コン …… 175
公算 …… 15
公用文作成の要領 …… 271, 287
合理的 …… 68
超える・越える …… 116
呼応 …… 229
氷菓子 …… 188
呉音 …… 61, 93

語幹 …… 223, 245
国王 …… 62
国字 …… 113, 121
黒白(こくびゃく)をつける …… 60
告る …… 21
語源・語原 …… 305
語源俗解…… 387, 393
午後 …… 412
こころばえ …… 43
ございます …… 365
ゴジラ …… 12, 150
こずえ …… 390
午前 …… 412
こそあど言葉 …… 257
濃そうだ…… 245
ご存じ …… 207
五段活用…… 207
ごっこ …… 27
コップ …… 415
言霊 …… 18
子どもっぽい …… 246
この …… 256
このころ・このごろ 322
木の葉 …… 390
木の実 …… 390
此は如何に …… 139
ご飯 …… 154
込む・混む …… 120
ごめんなさい …… 366
木漏れ日…… 390
粉雪(こゆき) …… 388
来(こ)よう …… 307
五里霧中…… 408
これ …… 256
コロケーション …… 15
今後 …… 56
混交語 …… 13
混種語 …… 97
コンセント …… 172
コンタミネーション 13
こんにちは …… 276
こんばんは …… 277

## さ～そ

**歳**・才 …… 84
財布のひも …… 156
さえずる…… 14
サ行変格活用 …… 207
さく(柵・冊) …… 255
朔(さく)…… 80
作物 …… 92
桜 …… 154
さしあげる …… 376
指す …… 14
サツ …… 16
冊 …… 252, 255
五月晴れ…… 404
五月闇 …… 404
さび …… 55
さびしい…… 54
さびる(寂びる・錆びる) 55
さびれる…… 55
サ変 …… 207
サポーター …… 422
サボる …… 20
様(さま) …… 360
さみしい…… 54
五月雨 …… 127, 404
さむい …… 23
さやか …… 43
去る …… 19
さわやか…… 405
三差路・三叉路 … 303
参上 …… 374
さんずい…… 76
三昧(さんまい・ざんまい) …… 406
算用数字…… 294, 296
**し**(助詞) …… 234
紙(し) …… 254
じ・ぢ …… 280
しあさって …… 38
G(ジー)パン …… 417
子音 …… 321, 345
塩焼き …… 159
茂み …… 240
湿気(しけ)る …… 21
子午線 …… 413
事故る …… 20
指示語 …… 257
シシリー…… 289
自然体 …… 423
字体 …… 85
七転八倒…… 167
七難 …… 166
七変化 …… 166
シチリア…… 289
実力がある …… 192
シネコン…… 175
自発 …… 203
渋い …… 142
しめすへん …… 77
しも(助詞) …… 234
尺貫法 …… 160
しゃもじ …… 187
衆 …… 86
自由が丘・自由ヶ丘 261
習慣 …… 63
終止形 … 217, 223, 227
修飾 …… 324
終助詞 …… 233
秋霜烈日…… 133
十代 …… 107
衆知 …… 86
重篤 …… 180
十二支 …… 412
周年 …… 46
重箱読み…… 96
秋波を送る …… 132
衆をたのむ …… 86
熟字訓 … 127, 129, 131, 337
順延 …… 58
順風満帆…… 97
升(しょう) …… 161
錠 …… 172
省エネ …… 94
しょうがない・しよう(仕様)がない … 306
正午 …… 412
畳語 …… 25
正子 …… 413
乗車 …… 94
小の月 …… 329
菖蒲 …… 405
常用漢字(改定) 75, 83, 113, 120, 334, 339, 401, 407
将来 …… 56
将来的 …… 57
女王 …… 62
職(聒・恥) …… 84
所在なげ…… 242
助詞 231, 235, 277, 323, 393, 403
助数詞 …… 253, 255
食間 …… 62
ショック…… 180
助動詞 … 201, 211, 219, 221, 223, 225, 227
しりとり…… 346
～じる …… 206
知れる …… 202
白 …… 194
四六時中…… 164
白黒をつける …… 60
師走 …… 386
唇音 …… 317
陣笠 …… 111
新仮名遣い ⇨ 現代仮名遣い
人気(じんき) …… 331
新春 …… 132
信じる・信ずる…… 206
新陳代謝…… 178
**ず**・づ …… 280
水火も辞さない …… 60
すいません …… 316
推量(べし) …… 227
スープ …… 415
スオミ …… 289
すげのかさ …… 110
すごい・すごく…… 216
朱雀(すざく) …… 195
鈴なり …… 398
すずめ焼き …… 159
すっ(接頭語) …… 238
すったもんだ …… 239
すってんころりん 238
素っ頓狂…… 239
酸っぱい…… 142
すっぱ抜く …… 239
ステンショ …… 387
スパル(昴) …… 420
全て …… 420
滑り込み…… 423
滑る …… 18
統べる …… 420
スマートフォン … 290
スマホ …… 290
すみません …… 316
炭焼き …… 159
澄む ⇨ 清音
スリジャヤワルダナプラコッテ…… 411



～ずる …… 206
**背**(せ) …… 403
清音(澄む) … 320, 322
清少納言…… 408
背のたけ…… 402
青竜 …… 195
接続詞 …… 225
接頭語 …… 237, 239
接尾語 … 209, 241, 245, 247
ゼネコン…… 175
ゼロ …… 268
零戦 …… 268
0メートル地帯 … 268
せわしい・せわしない 208
専 …… 82
膳 …… 81
千客万来…… 170
千切り …… 170
千載一遇…… 170
洗車 …… 94
栴檀は双葉よりかんばし 45
千に一つ…… 170
千変万化…… 170
専門用語…… 180
千里の道も一歩から 171
千六本に切る …… 170
**巣**窟 …… 97
そうだ …… 222
促音(っ) 237, 313, 314
俗語 …… 43
十河(そごう) …… 327
ソップ型…… 415
その …… 256
それ …… 256
尊敬語 … 363, 365, 373
尊敬の助動詞 …… 201
存じる …… 375
存ずる …… 207

## た～と

**た**(助動詞) …… 218
誰(た) …… 394
だ(助動詞) …… 356
代・台(臺) …… 106
台 …… 252, 254
太陰太陽暦・太陰暦 329
対義語 …… 143
待遇表現…… 355
大字(だいじ) …… 295
代謝 …… 178
対象・対照・対称 … 100
対照的 …… 100
退治る …… 21
大の月 …… 329
台風・颱風 …… 106
タイ焼き…… 158
平らに発音する … 350
ダウンロード …… 177
たかが知れた …… 203
高みの見物 …… 240
だから …… 224
卓 …… 255
濁音(濁る) …320, 322, 324, 347
たくみへん …… 77
タクる …… 21
丈 …… 402
だけ …… 403
たけくらべ …… 402
武市(たけち) …… 318
タコ焼き…… 158
足す …… 136
たず …… 43
たそがれ…… 394
たち …… 251
たっけ・だっけ…… 220
塔頭 …… 123
縦書き …… 270
他動詞 …… 29
たとえ ⇨ 比喩
たとえ火の中、水の中 60
たなごころ …… 393
W(ダブル) …… 417
食べる …… 376
だまかす…… 28
だまくらかす …… 28
卵焼き・玉子焼き 298
だます …… 28
足りない・足らない 204
探検・探険 …… 300
断定の助動詞 221, 225
**乳**(ち) …… 389
違う …… 198
違くない…… 198
チクる …… 21
千千(ちぢ) …… 169
ちっとも…… 228
チャンネルを回す … 14
中食(ちゅうじき) 331
中称 …… 257
中途 …… 63
丁(ちょう) …… 252
朝刊 …… 96
張本人 …… 409
チョーク…… 416
直喩 …… 151
ちょっと…… 148
散らかす・散らす … 28
**つ** ⇨ 促音
ツアコン…… 175
一日(ついたち) 127, 328
通俗語源…… 387
月 …… 80
つきへん…… 80
つごもり…… 328
つつましい …… 52
～っぱなし …… 248
粒 …… 252
つぶる …… 54
～っぽい…… 246
つましい…… 52
つまらない …… 210
つむる …… 54
～づめ …… 248
梅雨(つゆ) …… 127
つらまえる …… 13
**丁**(てい) …… 302
Tシャツ…… 416
T字路 …… 302
ティーンエージャー 107
丁字路 …… 302
ディスる…… 21
丁重語 ⇨ 謙譲語Ⅱ
丁寧語 … 357, 359, 363
提喩 …… 155
テーブルクロス … 176
デカ …… 16
できっこ…… 26
適当 …… 349
デコる …… 20
です …… 356
デッドロック …… 177
手に負えない …… 212
テレホン・テレフォン 290
天気 …… 192
天気予報…… 153
伝聞の助動詞 …… 223
電話帳 …… 152
**等**(とう) …… 251
頭(とう) …… 253
棟(とう) …… 255
唐音 …… 123
同音異義語 101, 137, 342
同音衝突…… 389
同音の漢字による書きかえ …… 303
動詞 …… 67, 199
灯台もと暗し …… 156
読点 …… 264
とうに …… 396
同の字点…… 262
とうの昔…… 396
当用漢字… 85, 131, 303
当用漢字音訓表 … 117
当用漢字字体表 …… 83
～通(どお)し …… 248
とがらかす …… 28
とがらす…… 28
特色 …… 99
特長・特徴 …… 98
特定商品名 …… 155
時計数字…… 295
とことわに …… 43
年が明ける …… 140
土地鑑・土地勘…… 425
途中 …… 63
とっくに…… 396
轟く …… 86
殿(どの) …… 360
ど真ん中…… 236
ともがき…… 43
ドライバー …… 351
ドラマ …… 351
とらまえる …… 13
ドラム …… 350
取る・捕る・採る・撮る・執る …… 118
午砲(どん) …… 152
とんがらかす …… 28
ドンキホーテ …… 408
とんでもございません …… 358
とんでもない …… 358
とんでもないことでございます…… 358

## な〜の


**な**い …… 146, 208
ナイジェリア …… 411
ないとは限らない 144
なう …… 23
ナウい …… 22
ナウな …… 23
なおざり …… 48
中食(なかしょく) 331
永田町 …… 150
長っ …… 214
長雨(ながめ) …… 318
なくなる …… 19
なげ …… 242
なさい …… 366
なさげ …… 242
なぞなぞ …… 136
夏 …… 132
なつあし …… 77
など …… 250
七(なな) …… 326
七色の声 …… 166
七重の膝を八重に折る …… 167
七転び八起き …… 166
七たび探して人を疑え …… 167
七光り …… 167
七曲がり …… 166
なに(何) …… 332
名にし負う …… 234
なので …… 224
なのに …… 32
生コン …… 175
なり・成り・鳴り 398, 399
なるたけ・なるだけ 403
なれっこ …… 26
なん(何) …… 332
**に**(助詞) …… 230
臭い・匂い …… 112
におわす …… 113
苦い …… 142
にくづき …… 80
濁る ⇨ 濁音
錦織(にしこり) … 318
二重敬語 …… 379
二重否定 …… 145
ニッポン(日本) … 312
二の字点 …… 263
ニホン(日本) …… 312
日本髪 …… 64
日本食 …… 64
女房言葉 …… 139, 187
二六時中 …… 164
人気(にんき) …… 330
**ネ**ット …… 350
寝技・寝業 …… 105
年齢・年令 …… 84
**農**作物 …… 92
ノーコン …… 175
ノーサイド …… 422
のに …… 32
ノノ点 …… 263
伸ばす音 …… 278
ノマ …… 263
ノミの市 …… 176


## は〜ほ


**羽**(は) …… 389
パーマをかける …… 14
杯(はい) …… 253
梅雨(ばいう) …… 127
ハ行音 …… 291
博 …… 82
白亜 …… 88
百代(はくたい) … 107
伯仲 …… 128
伯・仲・叔・季 …… 128
白墨 …… 416
化ける …… 41
バジリコ・バジル 289
パソコン …… 174
裸一貫 …… 161
二十・二十歳 … 127, 168
パック …… 255
バッテリー …… 351
服部(はっとり) … 319
はてなマーク …… 266
バトン …… 422
はなぢ(鼻血) …… 280
花見 …… 154
羽・羽根 …… 108
翅(はね) …… 109
羽が生えたよう … 108
羽根突き …… 108
羽を伸ばす …… 108
バリカン …… 155
パリンドローム … 345
春 …… 132
反対語 …… 143
パンのみにて生くるものにあらず …… 155
**尾**(び) …… 255
ひい・ふう・みい … 326
非運 …… 69
日陰・日影 …… 102
美化語 …… 363, 377
干菓子 …… 188
非加入 …… 68
光らす・光らかす … 29
匹 …… 252, 255
引く …… 136
ひけらかす・ひけらす 29
非公表 …… 68
非合理 …… 68
非対称 …… 100
左横書き …… 270
ヒト …… 286
人一倍 …… 162
人気(ひとけ) …… 330
ひとつ・ふたつ・みっつ …… 326
ひと・ふた・み …… 326
一幕(ひとまく) … 327
火ともし頃 …… 395
人もなげ …… 242
一人・独り …… 296
皮肉る …… 21
美肌 …… 97
ひもじい …… 186
冷やかす …… 28
白虎(びゃっこ) … 195
比喩(たとえ) 151, 153, 155, 157
評価 …… 193
ひよこがかえる … 140
ビラ …… 419
平仮名 …… 284
平仮名書き …… 287
びる(接尾語) …… 30
便(びん) …… 289
**不** …… 66
部 …… 254
ファ行音 …… 291
フィレンツェ …… 289
不運 …… 69
深み …… 240
服 …… 81
複合語 …… 325
副詞 …… 35, 147, 229
不幸 …… 155
不合理 …… 68
ふじ(富士・藤) …… 280
部首 …… 76, 78, 81
不詳 …… 68
不使用 …… 68
再び …… 19
不定時法 …… 165
不定称 …… 257
筆が立つ …… 190
筆箱 …… 190
筆を折る …… 191
ふなづき …… 81
冬 …… 132
ふゆがしら …… 77
プラグ …… 172
プラットホーム・プラットフォーム 291
フランダース・フランドル …… 288
ぶり …… 46
フリーマーケット 176
ぶる(接尾語) …… 30
古びる …… 30
フローレンス …… 289
文語 …… 138, 339, 397
分別(ふんべつ・ぶんべつ) …… 330
**へ**(助詞) …… 230
米(べい) …… 90
平板型 …… 351
平和 …… 63
頁(ページ) …… 78
ベース …… 350
べき・べし …… 226
ペナントレース … 177
ベニス・ベネチア 288
弁(辨・瓣・辯) …… 85
変体仮名 …… 284
ヘント …… 289
**母**音 319, 321, 345, 347
母音交替 …… 391
望(ぼう) …… 80
方言 …… 38
宝物 …… 93
卯酉線 …… 413
ほえる …… 14
火口(ほくち) …… 391
保健・保険 …… 300
星かげ …… 102
補助形容詞 …… 309
補助動詞 …… 309, 377
ポチ …… 183
炎 …… 391
ホワイトハウス … 150
本(ほん) …… 252, 254
ポン酢 …… 387


## ま〜も


**真**(接頭語) …… 236
枚 …… 252, 255
参る …… 375
曲がりなり …… 398
真逆 …… 237
まぎらす・まぎらかす 29
マザコン …… 175
まつげ …… 392
まなこ …… 392
学舎(まなびや) …… 43
まねっこ …… 26
まねぶ …… 31
まほろば …… 43
真水 …… 237
丸み …… 241
万一 …… 170
まんざら …… 37
饅頭 …… 123
真ん中 …… 236
真ん真ん中 …… 236
万葉仮名 …… 284, 293
**巳**(み) …… 213
未加入 …… 68
未公表 …… 68
未詳 …… 68
未使用 …… 68
水菓子 …… 188
ミスる …… 20
未然形 …… 205, 207
三十日(みそか) … 328
三十路(みそじ) …… 168, 327, 328
三十一文字(みそひともじ) …… 327, 328
みたいな …… 150
道なり …… 398
ミッシングリンク 177
水戸黄門 …… 154
緑児 …… 194
緑の黒髪 …… 194
水無月 …… 393
港 …… 392
源 …… 392
身なり …… 398
未満 …… 116
みみへん …… 76
明日(みょうにち) 336
未来 …… 56
見る・みる …… 308
身を粉にする …… 388
身を立てる …… 397
民間語源 …… 387
**無**尽蔵 …… 409
むずい …… 283
むずかしい …… 282
無声音 …… 321
むつかしい …… 282
睦月 …… 386
棟(むね) …… 255
**め**(目) …… 46, 244
明 …… 80
名詞 …… 67
明喩 …… 151
召し上がる …… 378
メタボ …… 178
メタボリックシンドローム …… 178
メヒコ …… 289
メモる …… 20
面(めん) …… 254
**申**し上げる … 369, 370
申し訳ありませんが 383
申す …… 369, 375
目的語 …… 95
文字詞(もじことば) 187
もしもし …… 368
木簡 …… 292
基づく …… 281
モノ …… 286
ももんがあ …… 153
もらう …… 381
もりつち・もりど(盛土・盛り土) …… 97
もんがまえ …… 76


## や〜よ


**八**ヶ岳・八ケ岳 …… 261
やのあさって …… 38
やばい …… 16, 22
やぶく …… 12
やまなみ …… 43
山なり …… 398
やむを得ない …… 212
弥生 …… 400
やらかす …… 29
やる …… 376
**ヤ**刊 …… 96
有声音 …… 321
幽霊 …… 40
行(ゆ)く …… 338
湯桶読み …… 96
弓なり …… 398
**よ**(助詞) …… 232
宵のうち …… 395
妖怪 …… 41
幼児語 …… 363
洋式 …… 64
洋食 …… 64
洋数字 …… 294
様態の助動詞 …… 223
ような …… 152
ように …… 150, 152
洋髪 …… 64
洋風 …… 64
養鰻 …… 123
よげ …… 243
横書き …… 270
よさげ …… 243
よし(葦) …… 19
四十路(よそじ) … 168, 327
よそる …… 13
四つ仮名 …… 281
よばひ星 …… 421
夜目遠目かさの内 111
より …… 44
喜び・慶び …… 124
四(よん) …… 326


## ら〜ろ


**ら**(接尾語) …… 250
頼(らい) …… 79
らしい(接尾語) …… 30
ら抜き言葉 …… 200
〜られる …… 200
ランプ …… 176
**リ**モコン …… 174
略字 …… 84
領 …… 79
**0**・〇・零 …… 268
零下 …… 268
零細企業 …… 268
レース …… 177
歴史的仮名遣い(旧仮名遣い) 277, 279, 283, 315
〜れる …… 200
連語関係 …… 15
連体形 …… 217, 227
連濁 …… 123, 325
連用形 … 205, 207, 217, 223, 245, 339
**労**働・労動 …… 305
ロードオブザリング 177
ローマ数字 …… 295
ロール …… 177
ロールプレイング 177


## わ・を・ん


**羽**(わ) …… 253
ワイシャツ・Yシャツ 416
Y字路 …… 303
我が師 …… 392
我が友 …… 392
和語 60, 167, 373, 418
若人 …… 43
和魂漢才 …… 65
和魂洋才 …… 65
技・業 …… 104
業物 …… 105
和食 …… 64
和製語 … 173, 175, 285
私(わたくし・わたし) 334
私(わたし)的 …… 57
わたつみ …… 43
和風 …… 64
和平 …… 63
**ヲ**ニト …… 95
**ん** …… 70


## 記号


**々** …… 262